

# たんぽぽ

風に乗って飛ぶたんぽぽの穂のように、情報が広く届きますように...

## 誰もが担い手!



「ほほえみ会」は、心身に発達の違いや、障がいのある子ども達とその家族が主なメンバーです。子ども達は小学生から社会人と幅広く、地域校の特別支援学級や特別支援学校、大学に通学。また企業や作業所などで就労をしています。

私たちの願いは、子ども達が学校や地域でいきいきと暮らしていただくこと。学習会や親子水泳教室など、私たちにできることから力をあわせて取り組んでいます。

(ほほえみ会より)

### ほほえみ会のお仕事隊です!

会の活動のひとつとして、ボランティアにも取り組んでいます。少し気にしながら見渡せば、できそうなことはいろいろ。受け手になることもあれば、担い手になることもある、それがボランティアのいいところだと思います。「思いやり」や「たすけあい」の循環が、暮らしやすく居心地の良い地域をつくり、その中で子どもたちも役割を担っていることを感じながら、地域の一員として大きく成長してほしいと思います。

## 地域を意識した、障がい者支援の取り組み ～障がいのある人と地域の人がつながる方法～

### 作業所 & ふれあい活動 推進協議会

三田市に最初の小規模作業所（のぞみ作業所）ができてから16年。作業所は新たな出会いや生きがいづくり、また就労の場として、一人ひとりの自己実現に向けて、なくてはならない存在となっています。また、ボランティアなどのサポートや地域行事への参加、授産品の販売などを通じ、地域とのつながりも深められてきました。これまでの歩みを振り返りながら、藍地区を拠点とする「ホットステーション」の村井さんと、藍地区ふれあい活動推進協議会の今井さんにズバリ、語っていただきました。



### 作業所の取り組み ～地域に役立つことで、自信を得る～

Q（今井）作業所の取り組みを教えてください。

A（村井）ホットステーションの作業のひとつ



で、資源ゴミ回収（三田市クリーンセンターの認可を受けて、古新聞・古雑誌・牛乳パック・アルミ缶・ぼろ切れ、ダンボールを回収）をしています。電話をもらえば、家の前まで引き取りに行くので、廃品回収日に出せなかったり、集積場所まで重くて運べないなど、特にひとり暮らしの高齢の方には喜ばれて

おり、メンバーもやりがいを感じています。ボランティアとして、赤い羽根共同募金や24時間テレビのチャリティイベントに参加することも。ひとつひとつの取り組みは、地域との関わりの部分でもあり、役に立っているということが、メンバーの自信につながっています。



### 「声をかける」という役割と、「参加する」という役割

Q（今井）作業所が地域やふれあい協に期待したいことはありますか？

A（村井）作業所の運営そのものは、独自で企業努力すべきことと思っています。ただし、藍地区の中に存在している作業所としては、余暇的な活動として住民さんと一緒に、地域行事に参加する機会があればありがたい。市民センターまつりや、防災訓練などに参加させてもらい



▲防災訓練講演会(つつじが丘小学校)

ましたが、仲間として声を掛けてもらえるとうれしいです。

（今井）防災訓練にホットステーションとして参加していただいて、地域としては全体で取り組んでいる感がありとても良かった。実際に避難経路を車いすで移動するなどの実践が伴い、現状に即した避難のあり方について認識が広がった。そのような機会から「障がい」による生きづらさや生活課題についての理解が住民にも深まっていけばと思いました。

「何から取り組めばよいか…」を考える前に、できることも。

Q (今井) 藍地区の障がいのある人の把握は？

A. (村井) できていません。必要に応じて市から情報が入ってくることはありますが、全体を把握することはできません。

(今井) 地域には、情報がほぼなくて、問題も表には出てきていない気がします。気にはするものの個人情報でもあることから、関わりを持ちたくてもそのきっかけがない。ふれあい協としても、どのようなことに取り組んでいけばよいか、分らないというのが本音です。個人的には、当事者でない自分は、障がいへの理解が十分ではない・・・とってしまうと、どうしても、関わることに慎重になってしまう部分もあります。

(村井) 障がいのある人とどう接すればよいか、質問としてよく聞かれますが、考えすぎて接することができないよりは、特別何をするではなく、ただ普通に「あいさつ」してもらえれば、それでいいといつもお答えしています。



(今井) とにかく、初対面の方には「笑顔」を心掛けているつもりです。「地域の人たちの出合いの場」として、地域行事には、地域の人にできるだけたくさん参加してもらいたい。そのために、どのような立場の方も参加しやすいような配慮を各事業で考え、取り組んでいければと思います。

一つひとつの積み重ねをこれからも・・・

Q ホットステーションは13年目を迎えるそうですが、今の作業所の様子は想像の通りでしたか？またこの先についてを教えてください。

(村井) スタート当初より、目の前にある課題をひとつひとつ解決するために取り組んだ結果として、今の作業所の形があるといえます。今もその状況に変わりはなく、将来的には、家族の事情などで家庭生活が難しくなる利用者が、地域で生活を継続し、作業所へ通い続

けることができるよう「グループホーム」の立ち上げに取り組みたいです。それが、今の目の前の大きな課題でもあります。グループホームが地域に受け入れられて、ご近所付きあいが生まれたり、休みの日には地域のサークルやイベントに参加して余暇を楽しんでいただけるように、こ

れからも日々の活動を通じて地域との関わりを大切にしていきたいと思っています。

◀第二ホットステーションのみなさん



地域には様々な団体が、それぞれの目的で活動されていますが、当事者の団体や、施設・作業所の取り組みも、地域を支える担い手のひとつとなっています。互いの活動を知ることと一緒に取り組めることや、更なる効果が期待できることなど、いろんな可能性を感じました。

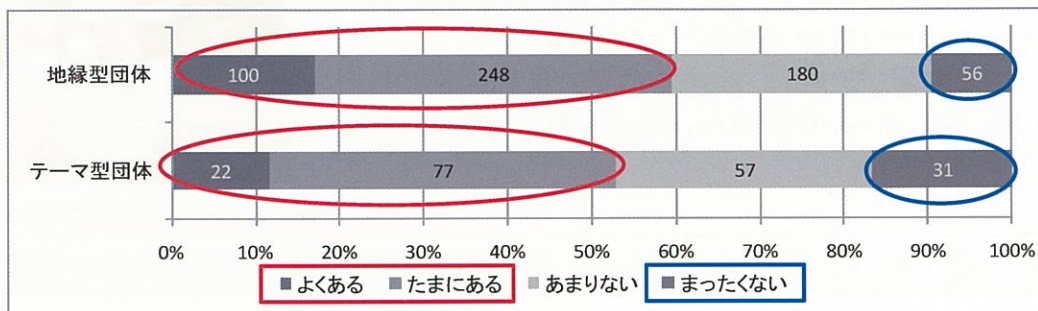


ホットステーションには、地域にお住まいの個人ボランティアさんもおられます。実際に活動に携わる形や、作業所の商品を購入する形、資源ごみ等を提供する形、寄付する形など、個人でできるサポートと、障がいへの配慮があるイベントの企画、地域行事など参加の呼びかけ、コラボレーション企画など、地域や団体として取り組める形があります。



平成 22 年区・自治会長や民生委員・児童委員、ボランティアグループ等の方に「地域活動を行うみなさまのアンケート」を実施しました。この中でも、地縁型団体とテーマ型団体との協力によって取り組んでいけるといった回答がありました。

「活動をする中で他の団体と連携(協力を得たり共に活動)することはありますか」という質問に対し…



「よくある」「たまにある」を合わせると、地縁型団体では 58%、テーマ型団体では 53% が他団体と連携していると回答。しかし、地縁型の 9%、テーマ型の 17% が他団体との連携はまったくないと回答され、連携する **きっかけがないことや他の団体の情報** が得にくいことなどが考えられます。

「今後やってみたいことや地域で必要と思われる取り組みは何ですか」という質問に対し…

「地域のつながり」や「孤立する要介護者への取り組み」が必要で、テーマ型団体と地縁型団体との協力によって取り組んでいけると答えた方が多くなっていました。

地域の抱える課題に対して、地縁の団体とテーマを持った団体がそれぞれの良さを持ち寄り、互いの取り組みを補完しあえる活動がこれからの地域福祉の活動に期待されています。

### きっかけや情報はどのように入手するの？

#### ● さんだつながりバンク

特技や趣味、専門技術をお持ちの個人・グループの情報を掲載しています。



#### ● ボランティア活動センター や 地域福祉支援室

地域活動のご相談に応じ、関係団体や助成金など各種、情報提供、調整を行っています。

#### ● 市民活動推進フラザ

(キッピーモール6階 TEL:559-5168)

市民活動団体の支援をします。テーマ型団体についての情報提供を行い、市民活動の相談、調整等を行っています。

### 地域福祉活動に関するご相談はこちらまで！ ご気軽にどうぞ★

三田市ボランティア活動センター (総合福祉保健センター内)	TEL:564-0410	FAX:559-5945
三田三輪地域福祉支援室 (総合福祉保健センター内)	TEL:559-5965	FAX:559-5945
広野本庄地域福祉支援室 (広野市民センター内)	TEL:560-5822	FAX:560-5823
小野高平地域福祉支援室 (高平ふるさと交流センター内)	TEL:560-8177	FAX:560-8178
藍地域福祉支援室 (藍市民センター内)	TEL:568-5400	FAX:568-5405
フラワー地域福祉支援室 (フラワータウン市民センター内)	TEL:550-9008	FAX:550-9009
ウッディカルチャー地域福祉支援室 (ウッディタウン市民センター内)	TEL:553-8373	FAX:553-7023